



松戸保健所感染症情報



(2017年10月12日配信)

2017年10月

ノロウイルス等による感染性胃腸炎に注意を

【発生状況】2017年40週の千葉県定点あたり報告数は2.60→2.66と横ばいですが、松戸管内では2.75→3.38と増加しています。冬場のピークに向けて、今後更なる患者数の増加が予想されます。

【感染経路】一次感染(食品や水を介しての経口感染)と二次感染(吐物、便の手指を介しての経口感染)があります。

施設・学校等においては、感染症対策マニュアルを確認し、発生時対応の周知を徹底して下さい。

【症状】24-48時間の潜伏期間を経て、嘔吐、下痢の他、軽度(37-38℃)の発熱、腹痛など個人差のある症状を呈します。

症状回復後も一週間程度はウイルスの排出が続きます。嘔吐、下痢に伴う脱水症状に注意して下さい。

【予防方法】

- ☑帰宅時、食事の前、トイレの後には必ず手洗いを。
- ☑感染した人の便や吐瀉物には、手袋やキッチンに直接触れないようにしましょう。
- ☑調理をする際にはよく火を通すようにしましょう。中心温度85-90℃で90秒以上加熱が目安です。
- ☑(施設では)床に汚物が付着した際は、次亜塩素酸ナトリウム(0.1%以上)で消毒し、十分に換気しましょう。



10月15日は
世界手洗いの日!

【TOPICS】10月15日は世界手洗いの日。この機会に正しい手洗い、勉強してみませんか。 <http://handwashing.jp/>

◇厚生労働省:高齢者介護施設における感染症対応マニュアル <http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/tp0628-1/dl/130313-01.pdf>

◇厚生労働省:保育所における感染対策ガイドライン <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku02.pdf>

◇厚生労働省:ノロウイルスに関するQ&A <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinzenbu/0000129187.pdf>

インフルエンザ ~「うつさない」「かからない」~

管内で今シーズン初の学級閉鎖報告がありました。

【最近の発生状況】2017年40週の千葉県定点あたり報告数は0.16→0.16と横ばいでしたが、松戸管内では10月2日に今シーズン初の学級閉鎖報告があり、40週の定点あたり報告数も0.28→0.72と増加しています。

【症状】突然の高熱、上気道症状(のどの痛み、咳、鼻水)、全身症状(頭痛、関節痛、筋肉痛)などがみられます。

脳炎や心不全を起こすこともあり、体力のない高齢者や乳幼児などは命にかかわることもあります。

【感染経路】主な感染経路は飛沫感染(くしゃみ、咳、会話等から生じた飛沫による感染)ですが、しばし接触感染(飛沫の付着物から手指を介した感染)でも感染します。



【予防方法】

- ☑流行前のワクチン接種:10月から接種開始しています。かかりつけ医に相談を。抗体がつくまでに約2週間程度かかります。
- ☑手洗い:石鹸を使って洗い、清潔なタオルやペーパータオルで手を拭きましょう。
- ☑咳エチケット:マスクを着用しましょう。咳やくしゃみの時は口と鼻をおおきましょう。鼻紙やマスクはフタ付きのゴミ箱へ。

【インフルエンザ症状が出たら】

人との接触は避け、早めに医療機関の受診を。会話でも飛沫感染しますので、咳やくしゃみがなくてもマスクをしましょう。

◇厚生労働省:インフルエンザQ&A <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

MR(麻疹風疹)ワクチン、接種しましたか

【麻疹】2017年39週に1件、40週に1件、県内医療機関からの届け出がありました。麻疹は主に空気感染で伝播し、ヒトからヒトに感染します。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。世界では麻疹は5歳以下小児の死亡の1.2%を占める病気で、麻疹の唯一の有効な予防法は2回のワクチン接種(1歳、就学前)です。医療機関や関係機関ではワクチン接種の確認と、未接種者への指導をお願いします。

【風疹】20-40代の男性の12.3%は抗体をもっていません。妊娠初期の女性が風疹に感染すると赤ちゃんの目、耳、心臓などに障害が出る先天性風疹症候群のおそれがあります。妊娠1ヶ月で感染すると、赤ちゃんが罹患する確率は50%以上。みんなで風疹を予防していきましょう。

◇国立感染症研究所:麻疹とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/518-measles.html>

RSウイルス

2017年40週の千葉県全体の定点当たり報告数は1.78→1.53と減少していますが、その中で松戸管内の報告数は2.6と県内で2番目に多い数となっています。秋先から流行し、年末に向けてピークを迎えるため今後の報告数の増加が予想されます。RSウイルスは乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者は重症化のリスクが高く、家庭内で伝播しやすいため、該当家庭では更なる手洗いうがい、咳エチケットなどの感染予防が肝要です。

◇国立感染症研究所:RSウイルス感染症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/317-rs-intro.html>

感染症発生状況(9月分)管内全数報告届出分

- 2類感染症/結核 14件
- 3類感染症/腸管出血性大腸菌感染症 7件
- 5類感染症/アメーバ赤痢 2件 急性脳炎 1件 梅毒 2件
- 後天性免疫不全症候群 1件 侵襲性肺炎球菌感染症 1件
- 播種性クリプトコックス症 1件
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件

松戸保健所管内の結核新規登録者数(9月分)

	活動性肺結核		活動性肺外結核	潜在性結核感染症
	喀痰塗抹陽性	菌陰性・その他		
松戸市	2	4	0	9
流山市	0	1	1	3
我孫子市	0	1	0	1
計	2	6	1	13

